

大学病院での誤嚥性肺炎の臨床病態のまとめ

熊本大学呼吸器内科 (1996-2002)

- 男性、高齢者に多い
- 基礎疾患は神経疾患、咽喉頭疾患、消化器疾患がほぼ 1/3 ずつを占める
- 誤嚥性肺炎を疑われて呼吸器内科を紹介される患者は 20 % にすぎない
- 確診時 75 % が反復性の肺炎の病歴を持つ
- 胸部画像所見は多彩である：病巣は下葉背側に多いが、上葉、中葉・舌区にも見られる

- 繰り返す肺炎は誤嚥性を疑う！
- 上葉や腹側（前）の陰影は誤嚥性肺炎を否定する根拠にならない！
- 嚥下障害の自覚症状（飲み込むのに時間がかかる、食べられない、食事のときにむせる）を注意深く問診する（見た目はあまりあてにならない）